

西北五支部 11月活動報告

皆さんこんにちは。西北五支部の中田です。

今月は五所川原市と、中泊町で地域ケア推進会議が行われました。

五所川原市のテーマは「在宅医療介護連携相談窓口の活用について」で、白生会胃腸病院(地域連携室)の看護師の方に講師としてお話し頂きました。

中泊町のテーマは「認知症になっても暮らし続けられる中泊町 オーラルフレイル予防と口腔健康管理について」でした。

今月は都合が悪くどちらも参加出来ませんでした。先月参加した中泊町の地域ケア推進会議の内容について、今回は報告します。

10月13日 中泊町役場にて、在宅医療・介護連携推進事業「看取り介護を実践するまでの道のり」として看取りの勉強会が行われました。講師は弘前医療福祉大学の工藤うみ先生で、自宅以外の場所、今回は施設での看取り介護の取り組みについて知ることが出来ました。

超高齢化社会が進む中で、看取り介護は今後もますます重要となってきますが今までの自宅、病院以外の選択肢として施設での看取りも増えてきています。いくつかの施設では看取り介護の実践までに家族向けのパンフレットを作ったり、気持ちを吐き出す場所としてカンファレンスの場を提供したりと、押し付けではなく、あくまで家族の気持ちに寄り添った様々な取り組みが行われているようです。

また今回は事例提供として、住宅型有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所の職員さんの話も聞くことが出来ましたが、施設での看取り介護は今後の主流になると考え、それを見据えた対応をした、家族からの感謝の言葉が励みになったという話がとても印象的でした。

看取り介護にはヘルパーさんやケアマネージャー等多職種の方々の協力が大切となるので、薬局としても何か手助けが出来るようにもっと取り組みたいです。在宅患者さんの処方薬の調剤、家族の方やヘルパーさんへ服薬指導をする機会がここ数年とても増えてきているので、今後も患者さんやご家族、施設職員さんからの薬や健康についての相談には出来る限り対応していこうと思いました。